

新型コロナワクチン子どもの接種に関する 座談会レポートページ

ワクチンの
安全性は？



5月8日から季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられる新型コロナウイルスですが、5類になるとはいえ感染力が下がるわけではありません。

インフルエンザと同様に今後、ワクチン接種が重要となり得ます。

子どもへの新型コロナワクチン接種についてまだまだ様々な不安や悩みをお持ちの方も多いと思います。

昨年開催したママ4名と専門家・看護師を交えた座談会の様子をお届けします。

子どもへの
ワクチン接種は
本当に必要？



専門家 北海道保健福祉部 技監 人見 嘉哲氏



北海道大学医学部卒業後、国立がんセンター研究所研究員、金沢大学准教授を経て、北海道入庁。道立の保健所長を経て、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部指揮室で感染症対策にあたり、1133日目(3/31現在)。

看護師 佐々木 敦子氏



札幌市ワクチン接種担当部健康相談員として普段から市民や医療機関からの相談を受けている。



Q1 ワクチンの安全性について 詳しく教えてください！

「新しいワクチン」と聞いてほとんどのママは「接種することで子どもに何かが起こるのではないかな？」そう考えると思います。しかし世界でみると億単位で接種されており、安全性が確立されていると言えます。



Q2 子どもへのワクチン接種って 本当に必要ですか？

大人も子どももワクチン接種後に感染すると症状が重くなりづらいという報告があります。ワクチンはあくまでコロナに感染するための練習だと思きましょう。初めてのウイルスが体に入ると高熱などの症状が現れ、特に子どもは熱性けいれんなどのリスクがあります。そうなる前にまずは体にコロナウイルスを記憶させ、抗体を作る必要があります。



Q3 副反応やアナフィラキシーが 怖いです…

まず、発熱などの全身症状は、ワクチンそのものの副反応というより筋肉注射の結果と捉えるべき反応がほとんどです。大人も子どもも1回目よりも2回目以降に発熱症状が多いのは、体の免疫反応であり自然なことです。

まれにアナフィラキシー症状※が起こりえますが、こういった症状は5分ほどで反応が出ると言われているため病院での待機時間でしっかり様子を見ることが重要です。

道内どこでも、アナフィラキシーが起こった際に備えて適切な処置及び緊急搬送できるシステムがあり、安全は担保されています。

※アナフィラキシー症状とは、短時間のうちに、目や唇の充血や腫れ、息苦しさ、皮膚のかゆみなど、全身にあらわれる強いアレルギー症状です。

副反応が出たときは…

接種後、いつもと違う様子であると判断した場合はワクチンを接種した病院へまずは相談しましょう。

副反応による発熱の場合は、特に子どもは少しの発熱でも体力を消耗してしまうため解熱剤を使ってください。病院から処方されたもの、市販のもの、どちらでも大丈夫です。

余談ですが…「風邪に伴う発熱」の場合、体がウイルスと戦っているから無理に熱を下げないほうが良い、とされ解熱剤の使用をためらう方が少なくありません。しかし子どもにとって高熱は体力を消耗させ、食欲不振や脱水につながるため38℃以下に抑えるようにしましょう。

座談会に参加したママの声



小児のワクチンについてはまだ分からないことが多く不安で打てない状態でした。今日分かりやすい説明を聞いて、理解が深まったので、子どものワクチンについて前向きに考えてみたいと思いました。 **Aママ**



ワクチンについての不安がだいぶ減りました。ネットなどで情報を集めると正しい情報かどうかを見極めるのが大変なので今日、話を聞けてよかったです。 **Bママ**

北海道からのお知らせ

- 令和5年度も自己負担なしで接種いただけます。
 - 生後6か月から11歳のお子様の新型コロナワクチンの初回接種の期間が令和6年3月31日まで延長されました。
 - 5～11歳のお子様への追加接種がオミクロン株対応ワクチン(ファイザー)になります。
- 対象** 少なくとも1・2回目接種を完了した5～11歳のお子様を対象です。
- 接種間隔** 最後の接種から3か月以上、間隔をあけて接種します。
- 接種期間** 令和5年8月末まで接種を受けることが可能です。



北海道のリーフレット

https://www.pref.hokkaido.lg.jp/fs/8/1/6/3/4/3/4/_/202303231040.pdf

ワクチン接種は強制ではなく、あくまでご本人の意思に基づき接種を受けていただくものです。接種を望まない方に接種を強制することはありません。また、受ける方の同意なく、接種が行われることはありません。